

## 第二百四十九話 女性団体の大同団結は？

ある推理小説を読んだ際に、大東亜戦時中の女性団体の統合に関する話題があった。少々具体的に調べてみた。引き続きの女性に関する話題となったが、女性の果たす役割の重要性に鑑み諒として頂きたい。

### 1 女性関係3団体の概要

設立年次の古い順に

#### (1) 愛国婦人会(1901/2/24)

北清事変を本願寺慰問使の一員として、前線将兵の惨苦を具に視察した婦人運動家の奥村五百子が、陸海軍の支援や政治家の援助を得て設立した。

会員数 311万人余 内地のみならず樺太・南洋諸島・朝鮮・台湾・満州国にも地方組織、内務省、厚生省系の女性団体であり、内務省が主導。親王妃が会長職も戦没将士の遺族及び廃兵の援護、その他の救護事業(婦人職業紹介、花嫁紹介 etc)

#### (2) (財)大日本連合婦人会(婦連 1931/3/6)

文部省系の女性団体。義務教育の普及に伴い結成された各地の「母の会」や「母姉の会」が母体となり、「学校教育への理解」「家庭教育の振興」を掲げて全国組織に発展した。

40都道府県と樺太・台湾・朝鮮・関東州に地方組織があった。

#### (3) 大日本国防婦人会(国防 1932/10/24)

前身は、大阪の国防婦人会(1932/3/18設立)

軍部特に陸軍省の指導、援助のもとに設立された。設立趣意書に、「国難を打破し国防を安固にし、以て皇国興隆の為一生を捧ぐるは日本婦人の使命」と謳っている。

会員は16歳以上の女子を対象とし、25歳以上又は既婚女子を正会員として、工場、デパートなどの勤労婦人も組織した。

### 2 三団体の発展統合(1942/2/2)と大日本婦人会の結成



三団体間の相互反感が強まり、遂に内閣の判断を仰がざるを得なくなり、1941(S16)年6月10日、定例閣議において三団体の統合要綱が定められた。翌年2月、大日本婦人会(日婦)が結成された。

「国防思想ノ普及」「家庭生活ノ整備刷新」「国防ニ必要ナル訓練」などを掲げ、全階層の女性を国家総力戦体制に動員することをめざして活動した。

未婚で満20歳未満の者を除くすべての女性を会員とし、会費は1人年額60銭で、政府や地方官庁から補助金が支給された。機関誌『日本婦人』を発行した。

大政翼賛会の下部組織に位置付けられ、陸軍省・海軍省・内務省・文部省・厚生省・拓務省の共同所管下に置かれた。

戦時中を描いたドラマや映画で良く見られる、ご近所に戦争協力を求める割烹着姿の女性たちがそうである。

およそ1000万人の会員を擁する当時最大の女性団体だった。地域から兵士が出征する時には、日の丸の小旗を手に盛大に見送り、兵士が戦死すると遺族のもとを訪れ「英霊」と讃えるなど、地域社会から戦争を支えた。

1942年10月に大日本婦人会歌制定し、戸倉ハルの振り付けによるダンス

1945年3月24日、国民義勇隊の編成が閣議決定に伴い、6月13日大日本婦人会は解散し、国民義勇隊女子隊に改組編入された。

\* 組織の統廃合問題は、国難に直面しても難しい問題だと痛感する。特に女性が絡むとその困難さが増す。(失礼!)

(了)